

中北勢

mie@mainichi.co.jp

自宅で人生をみとる

「最期の日まで普通の生活を送れるのが人生を全うすることだと思う」。「いしが在宅ケアクリニック」(四日市市山城町)の石賀丈士院長(42)は、病気が引き起こす苦痛などを取り除く緩和ケア医のスペシャリストとして注目される。病院で闘病の末に亡くなる人が多い中、往診医療で末期がん患者らに寄り添いながら、これまで1000人超をみとってきた。在宅医療の普及に向け、人材育成にも力を入れる。

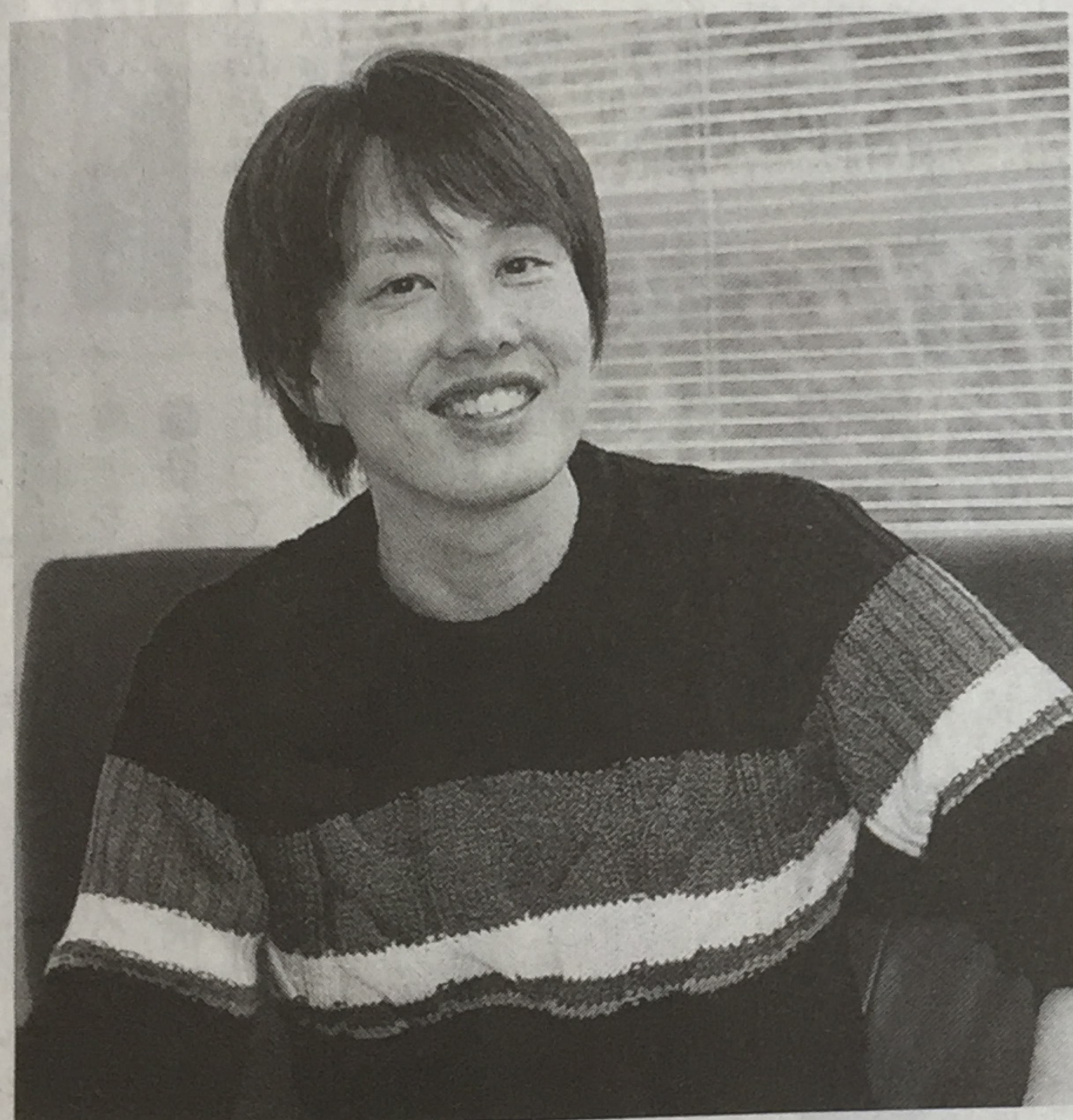
【松本宣良】

医師の道へ進むきっかけは祖母だった。「祖母は認知症で、まだ10代の私を前に『孫は町医者で活躍している』と言いつけていました」。砂漠で育つ食糧の研究をしたか

縁のない三重の地で医

彩人旬人

「いしが在宅ケアクリニック」院長 石賀 丈士さん(42)



大阪府出身。三重大医学部卒。医院は現在、常勤医師7人などスタッフ37人で、約500人を訪問診療している。患者は県北部が中心で、東京や愛知など他県からの照会も多い。在宅みとりの数など200～300人余で全国有数。みとりの数など四日市市内の医療機関をすみ分ける「四日モデル」も構築し、在宅医療を推進している。

「先進国なら、患者が亡くなる場所を選べないといけない。日本人は5割強が自宅を望んでいるのに、現実には8割が病院。このギャップを埋めないと」。開業10周年を迎える来年、医院のすぐ近くに研修施設を作る計画だ。「緩和ケア医を育て、全国へ巣立たせたい」。理想に向けて走り続ける。

学部生になったが、病院での実習で大きなショックを受けた。「痛みに苦しむ患者や、壮絶な死を目の当たりにした」。そんな時に浮かんだのが、自宅で穏やかに亡くなった祖母の姿だ。「このやり方はおかしい」。欧米

宅医療なんかで食っていないと医者仲間にはバカにされたが、平均30分かける丁寧な診察や、自宅で腹水を抜くなど医療の質を高めることで、評判が広まっていった。新規患者の5割強を末期がんの人が占める中、とりわけ亡くなる前の数週間のケアに全力を注いでいる。「家族が穏やかに逝けてよかった、と安堵の表情を浮かべてくれる。みとった後の『ありがとう』の重みが病院とは格段に違う」。昨年からは小中学生を対象に月に1度、「命の授業」と銘打った活動も始めた。自宅のみとる場面などをスライドで見せたりして死と向き合う機会を設けている。「泣いてくれる感性豊かな子や、『命って何でできているの』と深い質問をぶつける児童もいる。命の大切さを考えるきっかけになれば」と願う。

津支局

〒514-0006
津市広明町349の2
059(226)2211
FAX059(225)7081

伊勢支局

〒516-0037
伊勢市岩淵1の15の26
0596(24)1234
FAX0596(21)0174

四日市支局

〒510-0064
四日市市新正4の19の31
059(353)6451
FAX059(359)2065

名張支局

〒518-0621
名張市桔梗が丘1の6の84の1
0595(65)9161
FAX0595(65)9163

桑名通信部

0594(22)3350
FAX0594(24)1400
鈴鹿通信部

059(383)8311
FAX059(383)8288

松阪通信部

0598(28)5011
FAX0598(28)2310

鳥羽通信部

0599(25)2059
FAX0599(26)2058

尾鷲通信部

0597(22)2211
FAX0597(22)2211

伊賀駐在

0595(21)3251
FAX0595(21)3250

広告